



【日本気象協会からのお知らせ】

2019年12月16日
一般財団法人 日本気象協会

中国各省の気象局幹部による研修視察団が日本気象協会を訪問

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：長田 太、以下「日本気象協会」）は、2019年12月10日（火）に、中国各省の気象局幹部による研修視察団の訪問を受けました。

中国河北省や大連市の気象局 局長や天津海洋センター気象台 台長など、気象・防災の幹部が参加する研修視察団は、AI時代の気象行政についての視察を目的に来日されており、日本を代表する民間気象会社として、訪問先に日本気象協会が選ばれました。

日本気象協会からは「気象情報とAIの活用」をテーマに、気象予測データとPOSデータ（販売データ）などのビッグデータを活用した「商品需要予測コンサルティング」などの紹介を行いました。研修視察団からは、日本における気象ビジネスの仕組みやデータ活用の具体例に関する質問が寄せられ、日本気象協会の事業に対する関心の高さを伺うことができました。

また、研修視察団には、豪雨や暴風をARで疑似体験できる『豪雨・暴風疑似体験学習アトラクション HERASEON-R[へらせオン アール]』（企画・制作：日本気象協会）をご体験いただきました。

日本気象協会はこれからも、各国それぞれのニーズに合わせたビジネスを積極的に推進していきます。



中国各省の気象局による研修視察団と日本気象協会の担当者



視察の様子

以上